

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年
 【岬町：実施校数・児童数3校80人】
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年
 【岬町：実施校数・生徒数1校74人】

(3) 実施日 令和7年4月17日(木)

【今年度の調査特徴】

※中学校の英語については4年に一度の実施のため実施せず
 ※理科は3年ぶりの実施
 ※中学校理科はCBT(端末で解答)による実施
 ※質問調査は昨年度よりオンラインにより回答

(4) 調査内容

- ①教科に関する調査
 - ・小学校等【国語・算数・理科】
 - ・中学校等【国語・数学・理科】
- ②質問調査
 (児童生徒に対する調査、学校に対する調査)

各教科の状況

小学校国語	学習指導要領の内容		岬町の平均正答率(%)	「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、学習した漢字を文の中で正しく使うことが概ねできている。 一方で、「書くこと」における「書く内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること」や、「読むこと」における「文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」や「目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること」などに課題がある。
	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項		
情報の扱い方に関する事項			60.0	
我が国の言語文化に関する事項			82.5	
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと		59.2	
	書くこと		61.3	
	読むこと		53.1	

小学校算数	学習指導要領の領域及び評価の観点		岬町の平均正答率(%)	「数と計算」領域において、「異分母の分数の加法の計算をすること」はできている。また、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと」は概ねできている。 一方、「変化と関係」の領域において『「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと』に課題がある。また、すべての領域において、解の求め方や判断の理由等を「数や式や言葉を用いて記述すること」に課題がある。
	領域	数と計算		
図形			51.6	
測定			48.8	
変化と関係			55.4	
データの活用			59.0	
評価の観点	知識・技能		60.0	
	思考・判断・表現		46.6	

小学校理科	学習指導要領の区分・領域		岬町の平均正答率(%)	「地球」を柱とする領域において、「実験の方法」や「ほかの条件での結果の予想」などを表現することは比較的できている。 一方、「金属」や「乾電池のつなぎ方」に関する「知識」、「差異点や共通点をもとに新たな問題を見いだし表現すること」や「観察・実験の方法が適切であったかを検討して表現すること」、「温度によって水の状態が変化するという知識をもとにした、水の蒸発や結露についての概念的な理解」などに課題がある。
	A区分	「エネルギー」を柱とする領域		
「粒子」を柱とする領域			44.8	
B区分	「生命」を柱とする領域		49.7	
	「地球」を柱とする領域		61.3	
評価の観点	知識・技能		48.3	
	思考・判断・表現		56.9	

中学校国語	学習指導要領の内容		岬町の平均正答率(%)	「話すこと・聞くこと」において、「相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること」や、「読むこと」において、「表現の効果を根拠を明確にして考え」たり、「登場人物の設定の仕方を捉え」たりすることは概ねできている。 一方で、「書くこと」や「読むこと」において「根拠を明確にして」書いたり考えたりすることや、「話すこと・聞くこと」において「資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること」などに課題がある。
	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項		
情報の扱い方に関する事項				
我が国の言語文化に関する事項				
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと		49.0	
	書くこと		48.6	
	読むこと		65.8	

中学校数学	学習指導要領の領域及び評価の観点		岬町の平均正答率(%)	「関数」における「事象に即してグラフから必要な情報を読み取ること」や、「データの活用」における「必ず起こる事柄の確立について理解」することは比較的できている。 一方、「数と式」において「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること」や、「図形」において「条件を変えた場合に、証明を評価・改善すること」や「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること」などに課題がある。
	領域	数と計算		
図形			42.6	
関数			49.1	
データの活用			54.1	
評価の観点	知識・技能		55.3	
	思考・判断・表現		36.5	

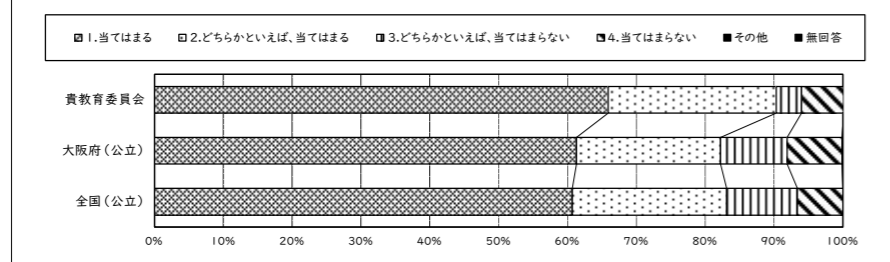
中学校理科	学習指導要領の領域及び評価の観点		岬町の平均正答率(%)	「粒子」を柱とする領域について、「探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現」することや、「気体の性質に関する知識が概念として身につけていること」は概ねできている。 一方、「生命」を柱とする領域において「生命を維持する働きに関する知識が概念として身につけていること」や、「地球」を柱とする領域において「地層を構成する粒の大きさと隙間の大きさに着目して分析して解釈すること」に課題がある。
	領域	「エネルギー」を柱とする領域		
「粒子」を柱とする領域			67.7	
「生命」を柱とする領域			46.9	
「地球」を柱とする領域			38.0	
評価の観点	知識・技能		71.2	
	思考・判断・表現		40.6	

※平均正答率はIRTスコアによる予測正答率を含む。

○将来の夢や目標を持っていますか

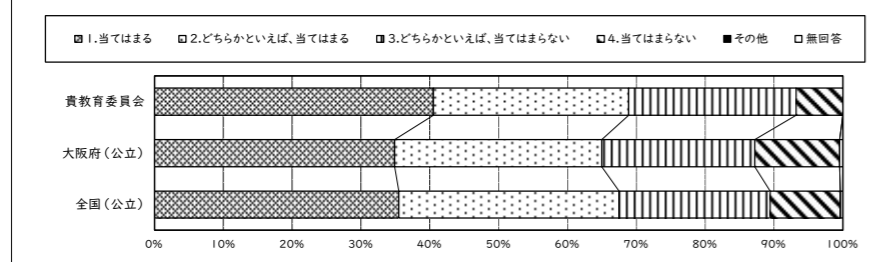
小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	65.9	24.4	3.7	6.1							0.0	0.0
大阪府(公立)	61.3	20.9	9.7	8.0							0.0	0.1
全国(公立)	60.7	22.4	10.3	6.6							0.0	0.0



中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	40.5	28.4	24.3	6.8							0.0	0.0
大阪府(公立)	34.9	30.1	22.2	12.3							0.0	0.5
全国(公立)	35.5	32.0	21.9	10.2							0.0	0.4

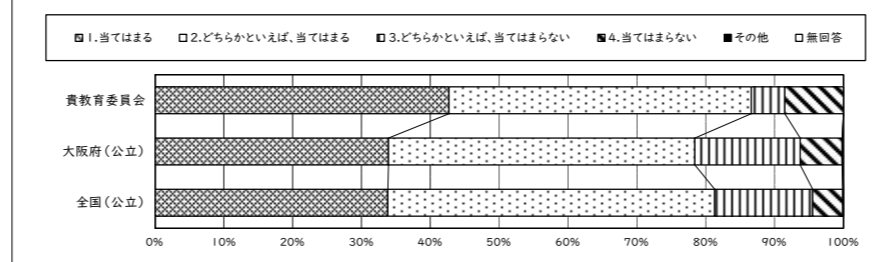


○肯定的回答の割合(小90.3%,中68.9%)が昨年度より小10ポイント、中13ポイント上昇し、全国・大阪府と比較しても高い値となった。自己理解を深める教育やキャリア教育を今後も充実・推進していくことが必要である。

○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

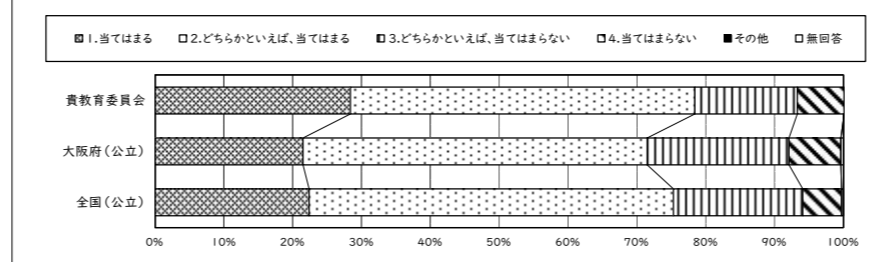
小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	42.7	43.9	4.9	8.5							0.0	0.0
大阪府(公立)	33.9	44.5	15.3	6.1							0.0	0.1
全国(公立)	33.8	47.5	14.2	4.4							0.0	0.1



中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	28.4	50.0	14.9	6.8							0.0	0.0
大阪府(公立)	21.5	50.0	20.6	7.5							0.0	0.4
全国(公立)	22.4	52.9	18.8	5.6							0.0	0.3

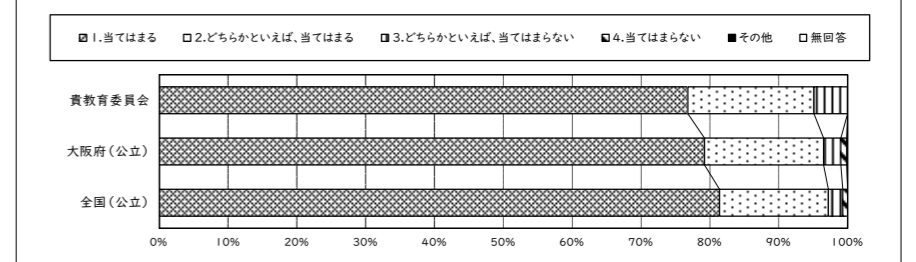


○肯定的回答の割合(小86.6%,中78.4%)が全国・大阪府と比較して高い。今後も、道徳教育や地域学習、ボランティア活動などを継続していくことが必要である。

○いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか。

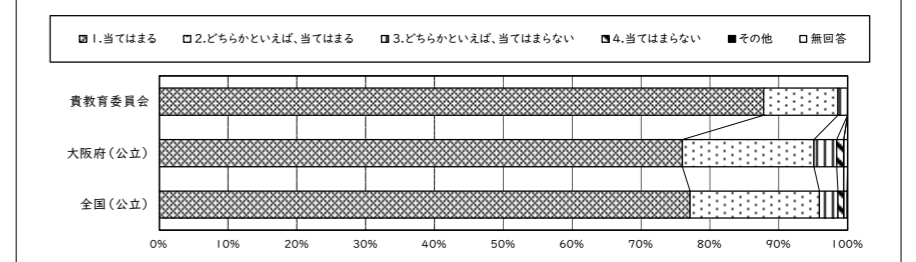
小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	76.8	18.3	4.9	0.0							0.0	0.0
大阪府(公立)	79.2	17.3	2.5	0.9							0.0	0.1
全国(公立)	81.4	15.8	2.1	0.7							0.0	0.1



中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	87.8	10.8	1.4	0.0							0.0	0.0
大阪府(公立)	76.0	19.1	3.3	1.0							0.0	0.6
全国(公立)	77.1	18.8	2.7	0.8							0.0	0.5

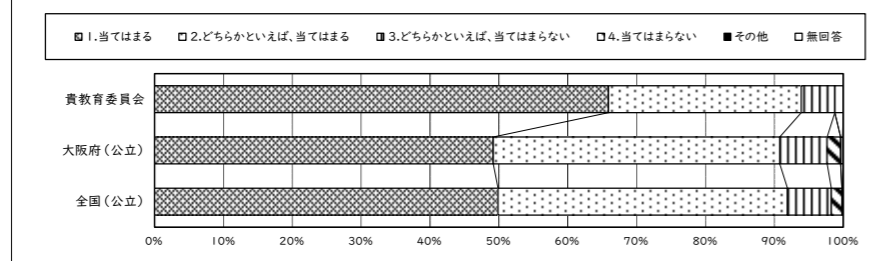


●小学校、中学校ともに、「当てはまらない」の回答は0%となったが、「どちらかといえば当てはまらない」と回答している児童生徒もあるため、さらに人権教育及び仲間づくり、いじめをなくす取り組みの推進が必要である。

○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

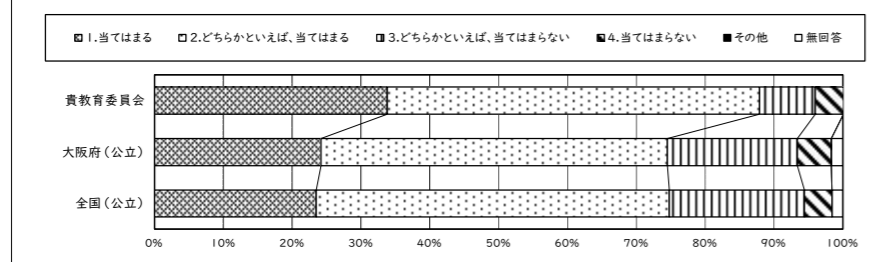
小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	65.9	28.0	4.9	0.0							0.0	1.2
大阪府(公立)	49.2	41.6	6.9	1.9							0.0	0.3
全国(公立)	49.9	42.0	6.4	1.5							0.0	0.2



中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	33.8	54.1	8.1	4.1							0.0	0.0
大阪府(公立)	24.2	50.3	18.9	4.9							0.0	1.7
全国(公立)	23.5	51.3	19.6	4.0							0.0	1.6

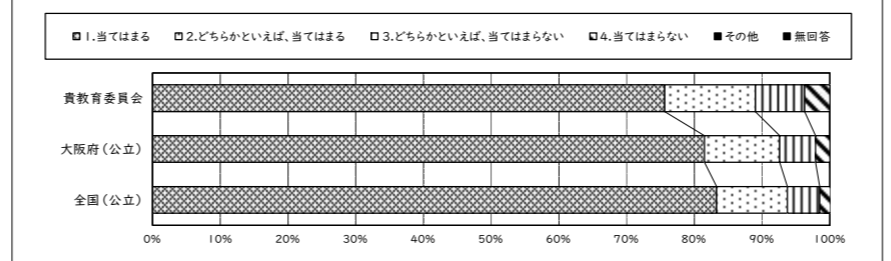


○学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」に関わる項目として、肯定的回答率(小93.9%,中87.9%)が、全国・大阪府と比較しても高い。今後も、グループ学習等に取り組み、児童生徒が互いの意見を尊重しながら協力できる環境を作ることが必要である。

○朝食を毎日食べていますか。

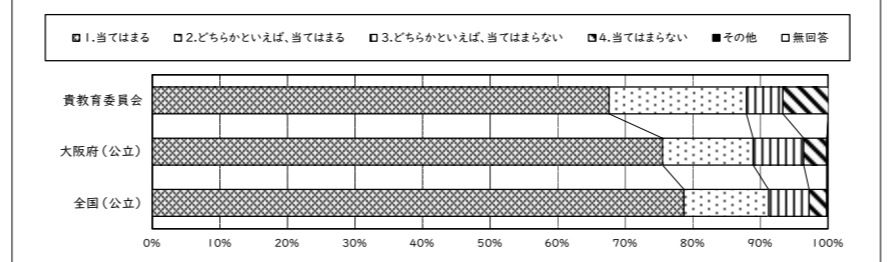
小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	75.6	13.4	7.3	3.7							0.0	0.0
大阪府(公立)	81.5	11.1	5.3	2.1							0.0	0.0
全国(公立)	83.3	10.4	4.8	1.6							0.0	0.0



中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	67.6	20.3	5.4	6.8							0.0	0.0
大阪府(公立)	75.5	13.4	7.5	3.4							0.0	0.2
全国(公立)	78.7	12.5	6.0	2.6							0.0	0.1

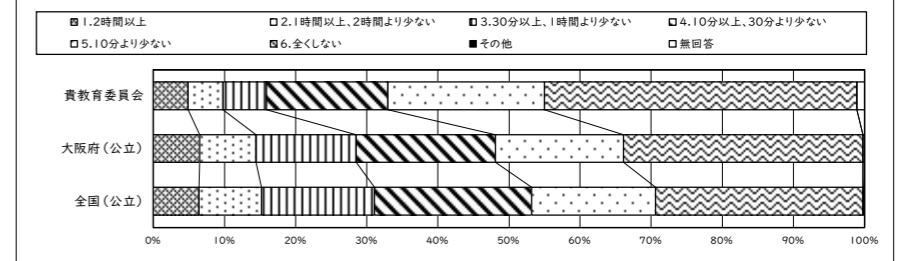


○朝食を抜くことがある児童生徒は小学校で約24%、中学校で約32%にのぼる。また「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の項目も、小21%、中27%が否定的回答をしており、生活リズムが整っていない子どもの割合が高い。家庭や関係機関との連携をより大切にしていく必要がある。

○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

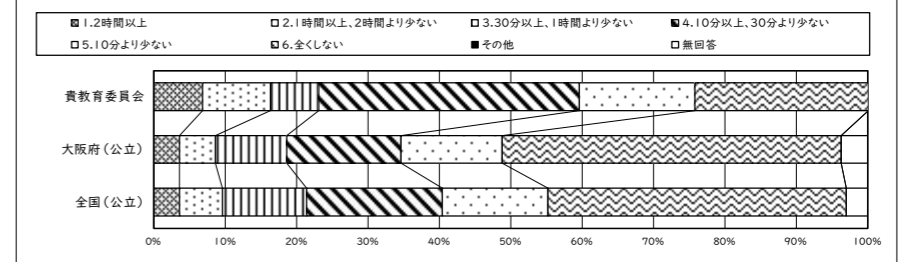
小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	4.9	4.9	6.1	17.1	22.0	43.9					0.0	1.2
大阪府(公立)	6.5	7.9	14.1	19.6	18.0	33.7					0.0	0.3
全国(公立)	6.4	8.8	15.9	22.1	17.4	29.2					0.0	0.1



中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	6.8	9.5	6.8	36.5	16.2	24.3					0.0	0.0
大阪府(公立)	3.6	5.0	10.0	16.0	14.2	47.5					0.0	3.8
全国(公立)	3.6	6.0	11.8	19.0	14.8	41.8					0.0	3.1



○平日の読書量は、小学校で少なく、中学校で多い傾向がみられる。別項目の「平日の勉強時間」も同様の傾向であり、「全くしない」の割合が1~2割あることは課題である。小学校段階から読書の楽しさや日々の学習の積み重ねの大切さを実感できる取り組みが必要と考えられる。